25　　五人の求婚者　　　　　文法　助動詞⑩　めり・音便

読解　具体的内容をつかむ

求婚する五人の貴公子を拒み続けるかぐや姫に、がそのうちの一人と結婚するよう説得している。

かぐや姫のいはく、「よくもあらぬかたちを、深き心も知らで、あだ心つきなば、後くやしきこともあるべきを、と思ふばかりなり。世のかしこき人なりとも、深き心ざしを知らでは、㋐あひがたしとなむ思ふ」と言ふ。

翁のいはく、「思ひのごとくものたまふかな。そもそも、いかやうなる心ざしあらむ人にかあはむと思す。かばかり心ざし㋑おろかならぬ人々にこそⓐあめれ」と言ふ。かぐや姫のいはく、「①なにばかりの深きをか見むと言はむ。いささかのことなり。人の心ざしⓑ等しかんなり。②いかでか、中に劣りりは知らむ。五人の中に、ゆかしき物を見せたまへらむに、御心ざしまさりたりとて、仕うまつらむと、そのおはすらむ人々に申したまへ」と言ふ。「よきことなり」と受けつ。

語注

かばかり＝これほど。「、の降り凍り、の照りはたたくにも障らず（かぐや姫の姿を見るため、翁の家へ）来たり」とある。

基本古語

かたち（名）＝。顔立ち。

かしこし（形ク）＝①おそれ多い。尊い。②優れている。立派だ。③都合がよい。運がよい。

【原文】

かぐや姫のいはく、「よくもあらぬかたちを、深き心も知らで、あだ心つきなば、後くやしきこともあるべきを、と思ふばかりなり。世のかしこき人なりとも、深き心ざしを知らでは、あひがたしとなむ思ふ」と言ふ。

翁のいはく、「思ひのごとくものたまふかな。そもそも、いかやうなる心ざしあらむ人にかあはむと思す。かばかり心ざしおろかならぬ人々にこそあめれ」と言ふ。かぐや姫のいはく、「なにばかりの深きをか見むと言はむ。いささかのことなり。人の心ざし等しかんなり。いかでか、中に劣り優りは知らむ。五人の中に、ゆかしき物を見せたまへらむに、御心ざしまさりたりとて、仕うまつらむと、そのおはすらむ人々に申したまへ」と言ふ。「よきことなり」と受けつ。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

かぐや姫は貴公子たちの愛情（＝［　　　　　　］）を知ることの重要性を［　　　］に説いた。さらに、彼らの愛情の［　　　　　　　　］を測ることを提案した。翁も［　　　　　　　　］であると同意した。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（終止形でよい）。〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕

㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ・ⓑについて、

(1)　ⓐの発音の仕方をカタカナで答え、音便を使わない形に直せ。〈2点×2〉

発音＝〔　　　　　　　〕音便を使わない形＝〔　　　　　　　　〕

(2)　ⓑの現代語訳として最も適当なものを選べ。また、「等しかん」の、活用の種類と活用形を答えよ。〈2点×2〉

ア　同じようだ　　　　　イ　同じかもしれない

ウ　同じである　　　　　エ　同じだろう

活用の種類＝〔　　　　活用〕　　活用形＝〔　　　　形〕

問四　［チェック問題］助動詞⑩　めり・音便

(1)　次の活用表を完成させよ。〈1点〉

|  |  |
| --- | --- |
| めり |  |
|  | 未然形 |
|  | 連用形 |
|  | 終止形 |
|  | 連体形 |
|  | 已然形 |
|  | 命令形 |
| 終止形。ただしラ変型のときは連体形。 | 接続 |

(2)　 傍線部の語のもとの形を答え、（　　）内を現代語訳せよ。

〈2点×2〉

1　世の中に物語といふものの（あんなる）を、…（更級日記）

　　世の中に物語というものが［　　　］のを、…

2　なほ、ただ人にてだに（をかしかべし）。（枕草子）

　　（忘れたことを覚えているのは）やはり、普通の身分の人でさえ［　　　］。

1　もとの形＝〔　　　　〕　現代語＝〔　　　　　　　　　　〕

2　もとの形＝〔　　　　〕　現代語＝〔　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部①の解釈として最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　私が知りたい愛情の深さは、大げさなことではありません。

イ　求婚者たちの愛情は、たいしたものではありません。

ウ　あなたは、求婚者たちのどこに深い愛情を感じたのでしょうか。

エ　求婚者たちは、どれほどの愛情をかけてくれるのでしょうか。

〔　　　〕

問六　傍線部②とあるが、かぐや姫はどのようなことで求婚者たちの愛情の優劣を測ろうとしたのか。二十字以内で答えよ。〈13点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　本文の内容に合致するものを一つ選べ。〈8点〉

ア　かぐや姫は、貴公子たちが自分の見た目にしか興味を持たないことに対して腹立たしく思っている。

イ　翁は、かぐや姫が無理難題を持ち出して結婚を逃れようとするので、困り果ててしまっている。

ウ　かぐや姫は、深い愛情をよせてくれる貴公子とならば、是非　とも結婚したいと思っている。

エ　翁は、かぐや姫が貴公子たちとの結婚に踏み切れない理由を聞いて、姫の考えに理解を示している。

〔　　　〕【解答】

問一　心ざし／翁／劣り優り／よきこと

問二　㋐＝結婚する　㋑＝並ひととおりだ〈4点×2〉

問三　⑴　発音＝アンメレ　音便を使わない形＝あるめれ〈2点×2〉

　　　⑵　ア　／　活用の種類＝シク（活用）　活用形＝連体（形）〈2点×2〉

問四　⑴〈1点〉

|  |  |
| --- | --- |
| めり |  |
| 〇 | 未然形 |
| (めり) | 連用形 |
| めり | 終止形 |
| める | 連体形 |
| めれ | 已然形 |
| 〇 | 命令形 |
| 終止形  (ラ変型には連体形) | 接続 |

⑵　1＝ある／あるそうな〈2点×2〉

　　2＝をかしかる／おもしろいはずのことだろう

問五　ア〈8点〉

問六　かぐや姫の見たい物を持ってくること。（18字）〈13点〉

問七　エ〈8点〉

【現代語訳】

かぐや姫が言うことには、「美しくもない顔なのに、（相手の）深い愛情もわからないで、（結婚して、あとで相手に）浮気心がついたなら、後悔することもあるはずなのに、と思うだけである。この上なく立派な人であるとしても、深い愛情をわからない（まま）では、結婚しにくいと思う」と言う。

翁が言うことには、「（私の）考えと同じようにもおっしゃるなあ。（しかし、）いったい、どのような愛情を持つような人と結婚しようと（かぐや姫（あなた）は）思いなさるか。（どなたも）これほど愛情の並ひととおりでない方々であるようだ」と言う。かぐや姫が言うことには、「どれほどの深い愛情を見ようと言おうか、いやそうではない。ほんの少しのことである。求婚者たちの愛情は同程度であるようだ。どうして、（五人の）中に（愛情の）優劣がわかろうか、いやわからない。五人の中で、私の見たい物をお見せになったとしたらその人に、（その方の）ご愛情が勝っていると思って、（私は妻として）お仕え申し上げようと、その（求婚しに）いらっしゃっているとかいう人々に申し上げなされ」と言う。（翁は、）「結構なことだ」と承知した。

【補充問題】

問１　傍線部の説明として適当なものを、それぞれ次から選べ。

①世のかしこき人なりとも（２行目）

②いかやうなる心ざし（４行目）

③心ざしおろかならぬ人々（５行目）

④いささかのことなり（６行目）

⑤人の心ざし等しかんなり（６行目）

⑥よきことなり（８行目）

ア　断定の助動詞

イ　伝聞推定の助動詞

ウ　形容動詞の活用語尾

エ　動詞

問２　「のたまふかな」（４行目）の主語を答えよ。

問３　次の文は、疑問、反語のどちらか答えよ。

①いかやうなる心ざしあらむ人にかあはむと思す。（４～５行目）

②なにばかりの深きをか見むと言はむ。（６行目）

③いかでか、中に劣り優りは知らむ。（６～７行目）

問４　「深き心ざしを知らでは、あひがたしとなむ思ふ」（2～3行目）とあるが、かぐや姫はどのようなことを心配しているのか。簡潔に答えよ。

【補充問題解答】

問１　①ア　②ウ　③ウ　④ア　⑤イ　⑥ア

問２　かぐや姫

問３　①疑問　②反語　③反語

問４　美しくない自分のせいで、相手が浮気心を起こすこと。